

国立大学法人 長岡技術科学大学
平成23年度第2回(第40回) 経営協議会議事要旨

日 時 平成23年6月24日(金) 13時30分～15時00分
場 所 ホテルニューオータニ長岡「雪椿」
出席者 新原議長、東委員、江口委員、齋藤(彬夫)委員、宮下委員、山崎委員、武藤委員、高田委員、宮崎委員、三上委員、中村委員、齋藤(秀俊)委員
(議事の表決の委任による出席者：池田委員、木谷委員、河野委員、神野委員)
陪席者 平山監事、丸山監事、小松附属図書館長、岡本学長特任補佐
事務局 総務部長、総務課長、広報室長、財務課長、財務課副課長、財務課予算係長、予算係主任、予算係員、総務課企画・評価係長、総務係係長、総務係主任 以上 27名

議事に先立ち、議長から早瀬委員の辞任の承認と東委員の所属先変更について報告があった。また、6月1日付けで学長特任補佐(男女共同参画担当)を任命したシステム安全系 岡本准教授の紹介があり、岡本准教授から挨拶があった。

続いて、第39回議事要旨(案)について説明があり、案のとおり承認した。

審議事項

1. 平成22事業年度に係る業務の実績に関する報告書(案)について

武藤委員から、資料1に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。

主な質疑応答は、以下のとおり

- 大変多くの取組・施策が実行に移されており、非常によいと思うが、これを全部達成していこうとすると、教員の負担が重くなり、その教員の研究成果に影響が出るのではないか。戦略室として、教員の実態を把握しておいた方がよいのではないか。
- 教育研究に割く時間の確保に苦勞しているが、戦略チームを作ることにより、期限を切り、ターゲットを整理し、作業を明確にするようにしたことで、いままでより少人数で取り組めるようにし、時間を有効に使いたい。また、教員によっては研究に没頭してもらわなければならない時期があり、意識的にその教員の負荷を減らすようなこともやり始めている。それを把握することは重要だと思っている。
- 学長が押し進める改革を職員にも実践的に広まるような形として、取組毎に2ヵ年計画、3ヵ年計画というような具体的な計画があれば分かりやすい。
- 各戦略チームのアクションプランを作成しており、どの時点で、どの位の時間をかけ、重要度の程度、学内だけでできるのか、連携がいるのか、PDCA等を明確にしたい。次回の協議会でお示しする予定であり、ご意見をお願いしたい。

2. 平成22年度決算(案)について

宮崎委員から、資料2及び参考資料に基づき説明があり、並びに丸山監事から過日監査を実施し、業務運営は法令等に従い適法に行われ、財務諸表においても適正のものと認めた旨の報告があった。なお、今年度は、資産除去債務を大学の会計でも認識し計上することになった旨の説明があった。

このことを踏まえ、審議した結果、平成22年度決算報告についてこれを承認した。

報告事項

1. 第1期中期目標期間の業務の実績に関する評価結果について

武藤委員より、資料3に基づき、報告があった。

主な質疑応答は、以下のとおり

- この結果は、どのように影響するのか。評価への対策はどうか。
- 若干、交付金が減額された。この評価は目標・計画に対してどれ位達成したかということで評価され、評価結果は公開することとなっている。どれだけ達成したかということが目に見えるかたち、数値的にそれが表せるようなものにするとか、今そういう対策を検討している。

- 進捗状況を問われている。期間とか基準値とか表現を工夫してほしい。
- 中期目標自体の立て方が適切だったかどうか、また、評価の仕方自体が適切だったかどうかということはあるが、評価結果のデータとか順位というのは勝手に一人歩きをする。高専の学生やそのご両親にどういう形で受け捉えられるか非常に大きな事であるため、慎重に行いたい。
- 監査においては、それを踏まえ、新潟県にあるこの長岡技術科学大学というのが日本全体の中でどういう役割をはたしてどういう意義があるのかという観点から行いたい。

- 本学が持っている各分野が、この先（50年、20年、10年）どのような世界に変わるのか、どういう時代になるのか、それに対応するにはどのような研究、産学連携等の目標を選んで、その目標が本学として世界に一番重要な事だと判断すれば良いと思う。
- 評価はどのような形であれ受けざるを得ず、そしてその結果は公開されるため、何らかの対策を考えざるを得ない。

2. 国立大学法人における会計監査人の選任について

宮崎委員より、資料4に基づき、報告があった。

その他

1. 原子力システム安全工学専攻について

学長より、原子力システム安全工学専攻の設置申請状況について説明があった。

以上